

令和4年度第3回行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

令和4年8月29日（月）13：30～15：00

2 開催場所

花巻市生涯学園都市会館3階 第3学習室

3 出席者

（1）委員5名

影山一男委員（部会長）、細川祥委員、阿部久美子委員、安部修司委員、
菊池房江委員

（2）説明者（施策関係部、施策主管課）2名

地域振興部：藤井保宏部長

定住推進課：畠山夕子課長

（3）事務局（施策及び事務事業担当課）

財政課財務経営係：阿部ゆうみ主査

秘書政策課企画調整係：吉田真彦上席主査

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「特産品の開発」について評価を行った。

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（2）委員会の評価結果の集約

5 議事録

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（影山一男委員）成果指標「市の支援により地域資源の高付加価値化に取り組んでいる事業件数」について、目標値5.00件に対して、実績値4.00件となっているが、事務事業評価シートでは、花巻クラフトワイン・シードルブランド化推進事業で2件、6次産業化推進事業では3件の実績で合計5件であるが、4.00件という数字はどのように算定したのか。

（畠山夕子課長）ワイナリー補助金と農商工連携事業補助金で重複している事業者が1件あるため、申請件数としては5件だが、事業者数としては4件となる。

（影山一男委員）もう1つ、施策を構成する事務事業一覧の040（花巻クラフトワ

イン・シードルブランド化推進事業)の評価について、コロナ禍のため中止となっているが、成果がAとなっている理由は。

(畠山夕子課長) 花巻クラフトワイン・シードル推進事業としては全体でA評価であるものの、040の内容(醸造技術研修、醸造技術・ワイナリー経営セミナー開催)については中止となっている。

(影山一男委員) 040から042までが一本の事業で、全体ではA評価になっているため、040もA評価になるということで理解したが、1つの事業が分割されて記載されているのはどのような理由によるものか。

(吉田上席主査) 確認の上、次回の部会において報告させていただきたい。

(阿部久美子委員) 1ページ目の反映状況のところに、申請についてワイン関係の記載のみとなっているが、補助金申請はワインに関する部分しかなかったのか。

(畠山夕子課長) ワイン以外についても農商工連携事業補助金による申請があった。

(阿部久美子委員) 農商工連携事業補助金は比較的認知されにくい、あまりわからないと感じる。どういう形で情報を市民に公開しているのか教えていただきたい。

(畠山夕子課長) ホームページや広報等でお知らせしている。本事業は新規開発、具体的には新商品の開発及び新規開発した商品の加工を行うための機械導入を行う事業を対象にしており、既存の事業者には伝わりにくいところもあったかもしれない。

(阿部久美子委員) 要望の場ではないと理解しているが、もっと周知して認知度を上げると、観光協会にも製造業者も多くいるので、そういうところを通じて情報をいただけたらもう少し手を挙げる人もいるのかなと思う。自分の会社でも過去に1度だけ本補助金を活用したことがあるが、いい制度だと思うので、認知度を高めていただくようお願いしたい。

(菊池房江委員) 6次産業化セミナーに15名の申し込みがあるということだが、コロナ禍でセミナーが開催できない中で、リモート開催や個別対応など、申込者をフォローする方策がほしいと思う。もし代替策などを実施しているのであれば、記載があればよいと思う。

(畠山夕子課長) 昨年度は直前まで開催準備をしていたが、結局中止となった。申し込みをいただいていた方には資料をお送りしている。今年度は抗原検査を行うなどして、開催するよう準備を進めていく。

(細川祥委員) ワインの地名度向上を進めるにあたって、飲食店のように実際に使うところか、酒類の販売店かいずれの販路に力を入れているのか。

(畠山夕子課長) 両方に力を入れている。花巻ワイン飲食店プロモーションイベントの展開や、事業者によるweb上でのプロモーションなどを展開しているところである。

(細川祥委員) 実際飲んでみないとわからないというところもあると思うが。

(畠山夕子課長) 関東圏において飲食店で花巻産のワインを提供するフェアを開催し、アンケート調査も行っている。昨年度は15店舗が参加。今年は首都圏のほか、大阪、福岡でも開催予定であり、アンケート調査も実施していく。

(安部修司委員) 花巻クラフトワイン・シードルブランド化推進事業の042についてのみ直結度がCとなっているが、この理由はなにか。

(吉田上席主査) 直結度については、「施策の目指す姿」と事務事業の「意図」が直結しているかどうかで判定される。本施策では目指す姿が「地場産品を活用し、付加価値の高い多くの商品を開発しています」と設定されている。このため、開発後の段階においてどのように販売していくかを支援するためであり、認知度向上を図る事業については、商品開発の成果を補完するものであり、その実施範囲もワインに関するものとして限定的であるため、直結度がCとなっていると認識している。各政策においても、施策の目指す姿に照らして、それぞれ判断しているものになる。

(安部修司委員) 直結度に関しては、他の施策についても同様に判断しているのか。

(吉田上席主査) 直結度はA、B、Cの3段階で設定している。直結度Aは施策の目指す姿に対し事務事業の意図が直結するもの、Cは事務事業の意図が補完的・限定的であるもの、BはAとCのどちらにも該当しないものという区分。この区分は、各施策や事業の性質を見ながら設定しているものである。

(安部修司委員) シート中の「C」という記載のみで、先ほどの説明の中身まで理解することは難しいと感じる。

(吉田上席主査) 見直しを行うならば、次期総合計画に基づく評価を行う際に次の機会になると思うので、その点については検討させていただきたい。

(影山一男委員) 地場産品を活用した商品開発に取り組む24事業者のうち21事業者が事業継続し、新規が3件と良い数字だと思う。シートでは6次産業化の特産品として果実酒やワインの記載が中心だが、その他の事業にはどのようなものがあるか。

(畠山夕子課長) 事業者には、金婚亭の漬物や佐藤ぶどう園の1房まるごとの干しぶどう、産直未来路など様々な事業者がいる。

(藤井保宏部長) 産直未来路では梅の実などを使った加工品などを作っている。いずれにしても地元にある農産物を使って加工品を作り、付加価値を高めようとする事例になっている。

(阿部久美子委員) 事業継続の判定については、毎年調査をしているのか。またこの調査はずっと継続して行うものか。

(畠山夕子課長) 調査は毎年行っており、廃業の報告がない限りは継続としている。

(影山一男委員) シートの記載がワイン中心になっていて、具体的に他の事業があるのかがわからない。既存事業者、例えば〇〇、〇〇という形で記述してもらう必要がある。このシートだけでは、ワインのことだけだと思ってしまうのではないか。ワインが中心だが、そうした事業もあるということがわかるようになる。

それから、webの活用や、webサイトという記載については、市のホームページなのか、外部にいくつか活用できるサイトがあるのか、具体的に分かったほうが読みやすいと考える。実際に花巻市のワイン・シードルを検索し、市のホームページが出てきて、その他にもいろいろ出てくるので、webというだけではなく、アドレスなどもあると分かりやすいのではないか。web展示会というのも市のホームページでやっているものか。

(畠山夕子課長) 展示会は委託事業であり、事業者と事業者を結ぶ形で行っている。

(阿部久美子委員) この目標値の5件に対しては、実績が多ければ多いほうが良いのか。上限はないのか。

(畠山夕子課長) 多いほうが良い指標となる。予算の都合もあるが、事業の審査については、事業継続するために新規性や独自性などの重視して行っている。件数が多くなる場合は補正予算で対応することもありうる。

(藤井保宏部長) セミナーや講習会を開催し、すぐに商品開発に取り組む方は少ない。2年か3年かけて事業化を進めたいという際に相談に乗るなどして事業化の目途を立てていくが、商品開発に取り組むことが見込まれる場合はその年度の予算を多めにとるなどして、できるだけ予算不足にならないように計画的な支援ができるようにしている。

(阿部久美子委員) 花巻にはいいものがたくさんあるが、お土産にするものが少ないという声もある。観光協会でも花にまつわる商品開発を進めているところ。こうした事業と連携できればよいと思う。

(畠山夕子課長) エディブルフラワー(食用の花)の申請も昨年度いただくなどしている。特産品の開発については農商工連携ということで、農業者が自分で栽培した農産物を使うことになっているので、そこもポイントになってくると考えている。

(影山一男委員) 初期投資の費用が掛かるので躊躇しているという表現があるが、予算規模でいくと、加工品開発等は113万円、ワイナリーは2件で664万円支出している。ワイナリーの支援に集中しているのだろうと思うが、これは新たにワイナリーをやりたいという人にとって十分な費用、手を挙げて進められる費用なのか。

(畠山夕子課長) 花巻市はワイン特区をとっており、2k1醸造することができれば酒造免許が下りる。十分とは言えないが、新設の際には5分の4の補助率で最大500万円の支援をしている。他の市町村に比べれば手厚い補助といえる。

(藤井保宏部長) 醸造所を作るには特殊な機械の導入や瓶詰の場所なども必要。何千万円単位で費用が掛かると伺っている。ワイナリーを作る方はぶどう栽培もおこなっており、そちらの費用もかかる。そうしたこともあるので、委託醸造などを行いながら、5、6年かかってから設立となっている。特区認定を受けているので、小規模でもワイナリーは作れるが、反対に多くは醸造できないので、販路開拓が難しく、特定の場所に売るなどの工夫が必要になる。今後もワイン産業と農商工連携の2つの面から支援を検討していきたい。

(影山一男委員) コロナ禍ではワイン振興はなかなか難しいと思う。私が花巻に来た24、5年前だといろいろなホテルでワインイベントをやっていたような気がするが、今はどうか。

(畠山夕子課長) マルカンでエーデルワインが独自のイベントをやっていたりしている。ワインフェスティバルも開催され、ワインまつりも今度あるので、様子を見ながら進めていくということになると思う。

(2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

①「前年度の振り返り」の「反映状況」について

(影山一男部会長) 分かりやすく書かれており機能しているが、ECサイト、Eコマース、webサイトなどの表現については、ヒアリングで言われていたが、具体的に書けるのであればこういうサイトであるとか、こういう事業に関心を持っている方が関心を持っているときに、こういうサイトを利用しているということが分かれば、どのようなサイトなのかについて支障がなければ記述してもらえれば、ということがあった。

それからワイナリーという表現があったと思うが、醸造所という表現でなくとも大丈夫か。カッコ書きで醸造所とするとよいのではないか。岩手日日の記事ではワイナリー(醸造所)と書いてあった。

(菊池房江委員) その方が親切な表記になると思う。

(影山一男委員) それでは、指摘のあった表現について、支障がなければカッコ書きで補足するといった点をシートに記載していただきたいとして意見とする。

②「成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

(影山一男部会長) 達成度について、一方がCで、一方がAとなっており、普通に考えればBではないか、ととらえる人が多いかと思うが。これはそのような評価方法になっているということで良いか。

(阿部久美子委員) 達成度について、どのような決め方になっているか。

(吉田上席主査) 本施策の達成度は2つの指標に対してa,cであり、「成果指標の達成状況の半数以上がaまたはb」というC評価の条件に該当する。a,cの平均でB評価という直感的な感覚も理解はできるが、評価基準はそうのように定めており、実際にシート

を見る方との感覚に違いが生じる、という点は難しい課題である。

(影山一男部会長) 達成度cの指標はコロナウイルスの影響によるものがあり、それがなければa評価であったかもしれないし、目標値5.00に対し実績が4.00なので頑張っているとも感じる。評価自体は基準に則して的確に行われていると思うが、コロナウイルスの影響は100年に1度のことなので、そうした影響を評価にどう反映するかは考える必要があるかもしれない。

<他委員異議なし>

③「施策を構成する事務事業の検証」について

(影山一男部会長) 的確に検証されていると思うが、意見はないか。

<他委員異議なし>

④「施策の総合的な評価」について

(影山一男部会長) 的確に行われているということで良いと思うが、意見はないか。

<他委員異議なし>

⑤シート記載内容全般について

(影山一男部会長) 安部委員から、直結度について説明がないと分からないという意見があった。これだけ見ると分かりにくい点はあると思う。そのため、担当部署で説明をする際に少し触れてもらうということにしてもらえると良いと思う。併せて成果指標の評価と総合評価の関係についても説明してもらえると良いと思う。

また、分かりにくい表現や専門用語が含まれており、一読した際に頭に入ってこないところについては、可能な範囲で具体的な内容を書いてもらえると良い、といったところで良いでしょうか。

<他委員異議なし>

(前回部会の施策評価検証シート記載内容の確認)

第2回行政評価委員会しごと部会において、施策評価を行った「1-4-1 観光の魅力向上」の評価結果をまとめた施策評価検証シートについて、影山部会長より各委員へ説明。各委員より意見がなかったため、影山委員とりまとめの内容により成案とした。